

シラバス詳細

タイトル「2023年度」、カテゴリ「法) 政策科学科」

科目情報

科目名	講義名
地域統合論	地域統合論
実務経験のある教員による講義	学年
	2年
キャンパス区分	開講学期
北方	2学期
開講時期	曜日・時限
秋期	月5
科目種別	ナンバリング
講義科目	-
科目区分	単位区分
-	-
単位数	準備事項
2	
備考	

講義情報

ディプロマポリシー・到達目標

項番	内容	対象	到達目標
DP1	知識	○	国際政治・地域政治の基礎的知識を身につけている。
DP2	技能	△	多様な地域現象の情報を外国語で収集・処理できる。
DP3	思考・判断・表現力	◎	国内政治と国際政治の相互関係を複眼的に思考できる。
DP4	コミュニケーション力	-	-
DP5	自律的行動力	-	-

授業の概要

日本人を親にもつオーストリア貴族クーデンホフ・カレルギーが「汎ヨーロッパ」（1923）を著してからおよそ100年、ヨーロッパ政治は国境を越えた地域統合を進めてきたように見える。しかし一方で、近年の欧州政治の状況が示すように、ナショナリズムをめぐる論点、移民・難民をめぐる論点、新たな政治勢力の台頭は顕著である。世界は均質にまじりあってはいない。この論点は、これからの日本や東アジアの政治を見る上でも重要な視点になるだろう。

地域統合が進むとき、統合を目指す利害と統合に反発する利害のせめぎあいが起こる。単なる経済的利害だけではない、人の政治的信念や心理もここには影響を与える。本講義では、1) ナショナリズムという問題を改めて深く問い直すところから始め、2) 地域的事例と

してと欧州の戦後政治についての理解を深め、3) 国内マイノリティの統合に関する政治経済的ダイナミズムや理論を学ぶことを通じ、地域統合が抱える成果や問題点を考察する。

本講義の受講者は、1) 国内政治と国際政治の相互関係、とくにナショナリズムや国際統合（自由貿易など）に関する基礎的理解を理解・説明できるようになり、2) 国境より小さな単位の地域主義と国内統合の問題に関する、諸事例の知識やその制度的介入についての基礎を持ち、3) 国境より大きな単位への地域統合と国内政治の具体例である欧州統合およびその拡大について、種々の国々の基礎的な歴史・事例・具体例について基礎的な知識をもち説明できるようになる、ことが求められる（そして試験で問う）。

本学ディプロマポリシー上の到達目標は「国際政治・地域政治の基礎的知識を身につけている」「多様な地域現象の情報を外国語で収集・処理できる」「国内政治と国際政治の相互関係を複眼的に思考できる」となっており、そのためにも上記の3要件を満たすことが期待され、またそれが成績評価と授業設計の基盤をなすものと理解されたい。

教科書

特に指定しない。参照が必要な事項については各回の授業内で指示する。

参考書（図書館蔵書には○）

（どの本のどの章が、どの授業の回の参考資料となるかについて、初回授業で説明します）

- 塩川伸明『民族とネイション』岩波書店、2008
- 森井裕一『ヨーロッパの政治・経済入門』有斐閣、2014
- 久保慶一他『比較政治学の考え方』ミネルヴァ書房、2016
- 中村民雄『EUとは何か』信山社、2016
- 奥野良知編『地域から国民国家を問い直す』明石書店、2019
- 中井遼『欧州の排外主義とナショナリズム』新泉社、2021

授業計画・内容

回数	授業計画	内容
第1回	イントロダクション	イントロダクションとして科目の位置づけや授業予定について解説する。欧州を事例として地域の中にある価値感や文化の多様性に関する理解を深め、それらを政治的・公的意思決定プロセスにおいて統合することが必然的に含む課題について問題意識を共有する
第2回	ナショナリズム①	ナショナリズムの一般理論について解説する。文化的単位と政治的単位の一貫を目指す原則としてのナショナリズムについて、ゲルナーやアンダーソンによる古典的理論とその背景を学び、ナショナリズムのもつ多様性や、隣接する諸概念（愛国心やナショナルプライド）との重複と差異について、政治学や社会学の実証研究の知見から理解を深める。
第3回	ナショナリズム②	ナショナリズムと政治的な左右の枠組みについて考える。ナショナリズムは右派的な概念と結び付けられることが多い一方で、歴史的には左翼の主張するイデオロギーであることもあった。欧州統合を事例としつつ、政治的な左右と、ナショナルな態度にはどのような連関があるのか、データ分析をもとに理解を深める。
第4回	ナショナリズム③	ナショナリズムと民主主義／権威主義あるいはリベラリズムとの問題を考える。ナショナリズムは権威主義的思想と結び付けられることもあるが、同時に民主主義の基盤でもある。この論点に関して、着目すべき事例を紹介しつつ、政治学におけるデータ分析等からの知見を加味して検討を深める。
第5回	ナショナリズム④	：国際化とナショナリズムの変質について理解する。グローバル化は各国のナショナリズムを時代遅れにしたのではなく、それをむしろ変質・多様化させただけである可能性を検討する。地域主義的なナショナリズムや、国家を横断するようなナショナリズム、あるいは反移民のような保護主義型ナショナリズムはむしろ増していることを理解し、それぞれのナショナリズムのタイプ間の相互関係を理解する。
第6回	欧州統合①	欧州統合発足を例に国家を超える地域統合のメカニズムを理解する。政治的境界より大きな地域への統合の事例として、欧州統合を取り扱う。特に最初の欧州統合（ECSC・EEC）の発足について説明し、単にアイデンティティや欧州という共通文化が統合の推進材料だったのではなく、具体的な利害の考慮があったことを理解する。
第7回	欧州統合②	欧州統合の拡大過程を理解する。英国を例に、地域統合拡大メカニズムと国内地域主義暴発の事例を知る。イギリスや周辺北欧諸国の欧州統合参加過程について理解する。参加有無の判断が分かれた背景の一つに、国内産業の差異・多様性・統合との利益均衡の問題があったことを理解する。あわせて多文化国家イギリスの国内地域主義運動（特に北アイルランド問題）を学習し、それにどのような対応がとられたかを知る。
第8回	欧州統合③	統合の南欧・中欧への拡大を事例に経済格差と統合の軋轢を理解する。経済的後進に統合を広げることは、既存加盟国の一部世論との間に軋轢を生む。それがどのような構造の問題であるか、構造基金・結束基金という介入はどのような意味を持つのか理解する。また、これらの地域に存在している地域主義問題を知る。
第9回	欧州統合④	欧州統合の東欧への拡大を事例にきわめて異質な社会を統合する困難を理解する。2004-7年のEU拡大が新興民主国・旧共産圏への地域統合拡大という意味で質量ともに重大な拡大であった事を学ぶ。加盟国・被加盟国の政治経済的な利

回数	授業計画	内容
		害構造を学び、対応措置を知り、今日の欧州政治にたいしても持つ含意を理解する。
第10回	マイノリティ統合①	欧州以外の地域を含めて、国内マイノリティが含まれる地域の自治独立運動と国家統合の相互関係について理解を深める。基礎的な国家成立要件を手掛かりに、国内において主権や統合が確立されているというのはいかなる状況なのか理解する。対外的主権と対内的主権の境界にズレが生じているケースともいえる未承認国家の問題や事例を通じて、先述の問題をより深く理解する。
第11回	マイノリティ統合②	国内の地域的多様性統合の失敗ともいえる内戦を論ずる。政治的境界内部での、多様性や地域主義の統合が失敗した究極のケースが内戦である。内戦とは何かを理解し、その原因を理解した上で、制度的介入の例として連邦制も含めた議論を行う。
第12回	マイノリティ統合③	移動してやってくるマイノリティに対する政治的態度の源泉を理解する。欧州諸国での反移民態度や右翼政党支持の原因を理解する。この会では、特に政党支持を中心に検討する。人が他者を排斥しようとするのは、失業や貧困といった単純な経済的動機だけではなく、よりソシオトロピックな懸念によるものが大きいことを示す。
第13回	マイノリティ統合④	移動してやってくるマイノリティに対する政治的態度の源泉を理解する。欧州諸国での反移民態度や右翼政党支持の原因を理解する。この会では、特に反移民感情を中心に検討する。人が他者を排斥しようとするのは、失業や貧困といった単純な経済的動機だけではなく、よりソシオトロピックな懸念によるものが大きいことを示す。
第14回	グローバル化への目線	世界の地域統合枠組みと自由貿易体制について理解を深める。自由貿易に関する政治経済学上の理論を知り、グローバル化の中における民主主義と国民国家の問題と関連させた大枠の議論（ロドリックのトリレンマ）についても理解する。
第15回	デブリーフィング	ここまでの内容理解を振り返り知識の定着を図る。内容について振り返り、知識の習熟を図る。授業進行のイレギュラー、休講/補講による補填の調整、他クラスとの合同授業企画などの場合、この時間（に相当する枠）を充てることで、授業進行を調整する。

成績評価の方法

- ・授業途中3回の小課題 30%（1回につき、未提出/不可0点、可5点、優10点で評価）
 - ・期末筆記試験 70%（テークホークイグザムorオンラインになる可能性あり）
- 小課題提出なし+期末試験未受験の場合、評価不能「-」となります。

事前・事後学習の内容

各回、次回授業時の範囲にあたる文献を指定するので、それらを参照して予習する事。授業スライドはmoodleにアップする。なお、授業を通じてトータル3回の小課題提出がある（事後学習、もしくは次回授業の事前学習を兼ねる）。本科目の特質上、固有の政治的事実や固有名詞が頻繁に登場し、また実践科目である以上それらの知識を前提に次回授業が組み立てられていくことも想定されることから、特にそれらの知識を中心に復習に励むことを強く推奨する。

履修上の注意

担当者からのメッセージ

キーワード

SDG10, SDG16, SDG17